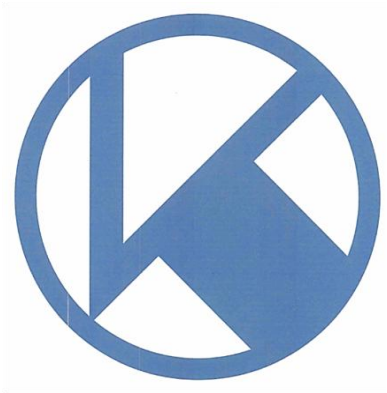
2026年度

郡山健康科学専門学校
講義概要



介護福祉学科
2年生

学校法人こおりやま東都学園

介護福祉学科　2025,2026年度生　履修一覧

1年		
教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
基礎科目	学習スキル	
	体育	
人間と社会	介護福祉論	●
	生活と福祉Ⅰ	●
	生活と福祉Ⅱ	●
	社会参加とボランティア	●
	英会話	●
介護	介護論Ⅰ	●
	介護論Ⅱ	●
	対象理解	●
	ボディーメカニクス	●
	安全管理と感染防止	●
	コミュニケーション技術	●
	対人援助技術	●
	介護基礎技術Ⅰ	●
	介護基礎技術Ⅱ	●
	家政学	●
	家政学演習	●
	レクリエーション支援技術Ⅰ	●
	レクリエーション支援技術Ⅱ	●
	介護過程理論	●
	運動機能障害者の介護過程	●
	総合演習Ⅰ	
	総合演習Ⅱ	
	実習Ⅰ－1	
	実習Ⅰ－2	
こころとからだのしくみ	老年学	●
	高齢者の介護	●
	認知症の理解	●
	認知症の介護	●
	からだの構造と機能Ⅰ	●
選択科目	法学	
	経済学	
	児童福祉論	

2年		
教育内容	科　目　名	国家試験該当科目
人間と社会	人間関係とコミュニケーション	●
	社会保障論	●
	福祉社会学	●
介護	ケアマネジメント論	●
	看取りのケアとグリーフケア	●
	居住環境学	●
	機能の維持及び回復	●
	介護福祉研究方法	●
	内部障害者の介護過程	●
	視覚・聴覚障害者の介護過程	●
	総合演習Ⅲ	
	総合演習Ⅳ	
	実習Ⅱ	
医療的ケア	介護と医療的ケア	●
	喀痰の吸引	●
	経管栄養	●
こころとからだのしくみ	障害の理解	●
	障害者の心理	●
	心理学	●
	からだの構造と機能Ⅱ	●
	疾病論	●
選択科目	地域福祉論	
	社会福祉援助技術演習	
	福祉事務所運営論	
	社会福祉施設経営論	
	社会福祉現場実習	
	社会福祉現場実習指導	

介護福祉学科　カリキュラムマップ

アドミッション・ポリシー（AP）　求める学生像	
AP①	慎重に考慮しながら行動できる学生
AP②	柔軟な発想をし、進んで困難や課題に取り組む学生
AP③	人とのかかわりを大切にし、地域社会に貢献したいと考える学生
AP④	生涯をとおし、探求心をもって介護福祉を学び続けられる学生

ディプロマ・ポリシー（DP）　卒業時に身につけている力	
DP①	介護福祉の進歩や社会の動向を踏まえ、介護福祉実践力の向上のため研鑽し続けられる
DP②	コミュニケーション力に基づいた、相互理解による援助的関係を築ける
DP③	論理的思考を活用し、科学的根拠に基づく介護実践ができる
DP④	多様なケア環境における多職種との協働・連携の中で介護福祉専門職としてその機能を発揮できる
DP⑤	人と人や地域社会とのつながりなどの問題に関心を持つことができる

カリキュラム・ポリシー(CP) 教育課程編成・実施方針	区分	1学年 前期	1学年 後期	2学年 前期	2学年 後期	求められる介護福祉士像 ／ DP 対応	
CP① 専門学校での学習の進め方を理解し、介護を実践するために必要な柔軟性を養う	基礎科目	学習スキル				1. 尊厳と自立を支えるケアを実践する	DP①②
		体育					
	人間と社会	生活と福祉Ⅰ	生活と福祉Ⅱ	人間関係とコミュニケーション			
		英会話	社会参加とボランティア		福祉社会学		
			介護福祉論		社会保障論		
CP② チームケア、感染防止、医療的ケアを学び、医療職・福祉職など多職種と協働・連携する力を養う	介護	介護論Ⅰ	介護論Ⅱ	ケアマネジメント論		2. 専門職として自律的に介護過程の展開ができる 3. 身体的な支援だけでなく、心理的・社会的支援も展開できる	DP①②③
		コミュニケーション技術	対象理解	看取りのケアとグリーフケア			
		ボディメカニクス	対人援助技術	安全管理と感染防止			
		介護基礎技術Ⅰ	介護基礎技術Ⅱ	機能の維持及び回復			
		レクリエーション支援技術Ⅰ	レクリエーション支援技術Ⅱ	介護福祉研究方法		4. 介護ニーズの複雑化・多様化・高度化に対応し、本人や家族等のエンパワメントを重視した支援ができる 5. QOL（生活の質）の維持・向上の視点を持って介護予防からリハビリテーション、看取りまで対応できる	DP③④
		家政学	運動機能障害者の介護過程	内部障害者の介護過程			
		家政学演習	介護過程理論	視覚・聴覚障害者の介護過程			
		総合演習Ⅰ	総合演習Ⅱ	総合演習Ⅲ	総合演習Ⅳ		
		実習Ⅰ		実習Ⅱ			
CP③ 介護を必要とする幅広い多様な人々に介護福祉を提供できる知識・技術および態度を備えた介護福祉専門職を育成するために教育課程を編成している	こころとからだのしくみ	からだの構造と機能Ⅰ		からだの構造と機能Ⅱ	障害の理解	6. 地域の中で、施設・在宅にかかわらず本人が望む生活を支えることができる 7. 関連領域の基本的なことを理解し、多職種協働によるチームケアを実践する 8. 本人や家族、チームに対するコミュニケーションや的確な記録・記述ができる	DP②③④
		認知症の理解	認知症の介護		障害者の心理		
		高齢者の介護	老年学		心理学		
				介護と医療的ケア	疾病論		
					喀痰の吸引		
					経管栄養		
	社会福祉主事（選択）	児童福祉論	法学	社会福祉援助技術演習		9. 制度を理解しつつ、地域や社会のニーズに対応できる 10. 介護職の中で中核的な役割を担う ＋高い倫理性の保持	DP①⑤
			経済学	福祉事務所運営論			
				社会福祉施設経営論			
				社会福祉現場実習指導			
				社会福祉現場実習			

介護福祉学科　教員紹介

2026.3現在

氏名	実務経験および現在の活動	主な資格	担当科目	単位
窪木　守	社会福祉施設勤務を経て、 介護福祉学科専任教員 学生支援部長 「介護」、「人間と社会」、「社会福祉主事科目」科目担当	介護福祉士 介護支援専門員 社会福祉主事	ボディメカニクス 介護過程理論 介護福祉論 社会保障論 対象理解 介護基礎技術Ⅰ 介護論Ⅰ ケアマネジメント論	1 1 1 1 1 2 1 1
佐藤　篤	社会福祉施設勤務を経て、 介護福祉学科専任教員(学科長) 「介護」、「人間と社会」、「社会福祉主事科目」 科目担当	学士(経営情報学) 修士(社会福祉学)	学習スキル 社会参加とボランティア 生活と福祉Ⅰ 生活と福祉Ⅱ 介護論Ⅱ 福祉事務所運営論 社会福祉施設経営論 社会福祉現場実習 社会福祉現場実習指導	1 1 1 1 1 1 2 2 2

佐々木　謙太朗	社会福祉施設勤務を経て、 介護福祉学科専任教員(主任) 「介護」、「人間と社会」、「こころとからだのしくみ」 科目担当	介護福祉士 社会福祉士 福祉住環境コーディネーター2級 学士（社会福祉学） 国家資格 キャリアコンサルタント 介護支援専門員	コミュニケーション技術 総合演習Ⅰ～Ⅳ 人間関係とコミュニケーション 介護福祉研究方法 社会福祉援助技術演習 視覚・聴覚障害者の介護過程 内部障害者の介護過程 介護基礎技術Ⅱ	1 4(計) 2 1 1 1 1 1

相楽　愛美	本校卒業後、社会福祉施設勤務を経て、介護福祉学科専任教員 「介護」、「人間と社会」、「こころとからだのしくみ」、「社会福祉主事科目」 科目担当	介護福祉士 社会福祉主事 同行援護従業者応用過程 行動援護従業者養成研修課程修了	運動機能障害者の介護過程 高齢者の介護 対人援助技術 福祉社会学 地域福祉論 認知症の理解 認知症の介護	1 1 1 1 1 1 1

岩田　浩司 （兼任）	社会福祉施設勤務を経て、 介護福祉学科専任教員 「介護」、「人間と社会」、「こころとからだのしくみ」 科目担当	介護福祉士 社会福祉士 保育士 日本語教育能力検定 日本語教師養成講座420時間 学士(文学) 修士(開発学)	運動機能障害者の介護過程 高齢者の介護 対人援助技術 福祉社会学 地域福祉論 認知症の理解 認知症の介護	1 1 1 1 1 1 1

星　亜矢子	病院勤務を経て、 介護福祉学科専任教員「介護」、「こころとからだのしくみ」、 「医療的ケア」科目担当	看護師	介護と医療的ケア 喀痰の吸引 経管栄養 内部障害者の介護過程 からだの構造と機能Ⅰ,Ⅱ 看取りのケアとグリーフケア 安全管理と感染防止 疾病論	1 1 1 1 1 2(計) 1 1

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
社会保障論 ※実務経験のある教員の授業科目	窪木　守 特別養護老人ホーム（介護福祉士）14年勤務	窪木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

社会保障の理念、内容、仕組み、その発展に至る経緯や歴史を理解し、専門知識として活用できる

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①わが国の社会保障の理念、内容、仕組みについて理解できる ②介護保険制度、生活保護制度、公的年金制度等の内容を理解し、社会保障の重要性を説明できる ③社会保障と福祉の役割、機能について理解できる	考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力 社会の理解

【履修上の注意】	分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	わが国の社会保障制度の概要	社会保障制度の成り立ちを理解する 変化するライフサイクル	個人
2	社会保障制度の変遷	戦前・戦後の社会保障の変容について理解する 少子高齢社会にふさわしい社会保障	個人
3	わが国の社会保障を取り巻く環境	社会構造の変化と社会保障の関係性を理解する 社会保障構造改革	個人
4	社会福祉基礎構造改革	社会福祉基礎構造改革の基本的理念を理解する 利用者の立場に立った社会福祉制度の確立	個人
5	生活保護制度	生活保護制度の成り立ちを理解する 最低生活費の保証	個人
6	介護保険制度①	介護保険制度創設のねらいを理解する 介護保険法の目的と基本的理念	個人
7	介護保険制度②	介護保険制度の概要を理解する 介護給付と予防給付	個人
8	公的年金制度①	公的年金制度体系と役割について理解する 公的年金制度の仕組みと給付	個人
9	公的年金制度②	年金制度改正の経緯を理解する 年金改正の基本的考え方	個人
10	老人保健制度	高齢者保健福祉施策の方向性について理解する 高齢者の生きがいと環境づくり	個人
11	保健医療	医療需要の変化について理解する 医療保険制度の概要	個人
12	障害者福祉施策①	障害者に対する年金・手当について理解する 障害者に対する年金・手当制度の理解	個人
13	障害者福祉施策②	障害者と雇用・就労について理解する 障害者福祉における就労支援システム	個人
14	児童に関する社会保障	児童に関する手当について理解する 母子保健対策	個人
15	まとめ	学習の振り返り	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　30% 受講態度　30%	筆記試験　40%

【教科書】	適宜資料を配布する
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	反復学習することが望ましい

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
福祉社会学 ※実務経験のある教員の授業科目	相楽　愛美 特別養護老人ホーム等（介護福祉士）7年勤務	相楽

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

ライフサイクルに起因する諸問題に対応すべき社会福祉や社会政策について、その現状や課題を考察する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①社会問題に関心を持ち、その諸要因について考察できる ②社会問題と社会福祉の関連性について理解し、社会福祉の支援について理解できる ③社会福祉の問題を社会学の視点から考察できる	考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力 人間と社会の理解

【履修上の注意】　過去及び現代の社会問題と、その要因や背景について関心を持って考えること。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	現代の社会福祉とは(福祉と社会の関係性) 福祉を取り巻く社会環境について学ぶ	個人
2	社会福祉と社会学	学問としても社会福祉 社会福祉学と社会学の概念枠組みについて理解できる	個人
3	社会と家族①	高齢者介護の現状と社会福祉 老人福祉問題の変遷から現状について学ぶ	個人
4	社会と家族②	日本における社会と家族について学ぶ 社会と家族について事例を通して考察する	個人
5	高齢社会と介護	高齢者介護の現状と社会福祉 老人福祉問題の変遷から現状について学ぶ	個人
6	福祉先進国の福祉	スウェーデンにおける福祉社会 制度的概念、スウェーデンの福祉について学ぶ	個人
7	地方分権	都市と地域 都市部・農村部における社会福祉について学ぶ	個人
8	今日の社会福祉の捉え方	福祉ミックス論 市場と民間・インフォーマルな社会福祉について理解できる	個人
9	女性問題と社会福祉	女性の社会進出とその背景 社会的ジェンダー問題について学ぶ	個人
10	児童問題と社会福祉	児童を取り巻く社会環境と社会福祉 児童を取り巻く諸問題と権利擁護について理解できる	個人
11	社会問題と社会福祉①	社会問題と社会福祉 社会問題を社会福祉学的視点で捉え、その起因について考察する	個人
12	社会問題と社会福祉②	社会問題と社会福祉 社会問題を社会福祉学的視点で捉え、その起因について考察する	個人
13	社会問題と社会福祉③	社会問題と社会福祉 社会福祉的視点、社会学的視点で捉えた要因について比較・検討する	個人
14	社会問題と社会福祉④	社会問題と社会福祉 社会福祉的視点、社会学的視点で捉えた要因について比較・検討する	個人
15	まとめ	福祉社会学のまとめ	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%

【教科書】	担当教員が指示します
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
人間関係とコミュニケーション(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目	佐々木　謙太朗 通所介護等（介護福祉士）7年勤務	佐々木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

社会福祉専門職者として、介護を必要とする方にかかわる態度・姿勢のあり方について理解します
そのために、バイステック7原則を中心に授業をすすめていきます

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①「自立性」と「自律性」について理解する ②「自己覚知」を理解する ③「人間関係の形成」「対人援助の重要性」を理解する	考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力 人間関係とコミュニケーション

【履修上の注意】　主体的に参加しましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	介護福祉士とコミュニケーションについて シラバスについて理解します	個人
2	専門対人援助関係の形成①	専門性の構造とその要素について 「福祉倫理」「専門知識」「専門技術」について理解します	個人
3	専門対人援助関係の形成②	専門職としての主体性について 自己覚知の一環として、福祉職としての適性を理解します	個人
4	動物介在療法①	ホースセラピーについて 専門職としての関わり方を理解します	個人
5	動物介在療法②	ホースセラピーについて 言語以外でのコミュニケーションについて理解します	個人
6	社会福祉援助活動の基本的枠組み	社会福祉援助技術について 社会福祉援助技術の体系と種類について理解します	個人
7	直接援助技術①	ケースワークについて ケースワークの沿革と基礎理論について理解します	個人
8	直接援助技術②	ケースワークについて バイステックの7原則について理解します	個人
9	直接援助技術③	ケースワークについて バイステックの7原則について理解します	個人
10	直接援助技術④	ケースワークについて ケースワークの展開過程について理解します	個人
11	直接援助技術⑤	グループワークについて グループワークの沿革と基礎理論について理解します	個人
12	直接援助技術⑥	グループワークについて グループワークの基本原則と構造について理解します	個人
13	直接援助技術⑦	グループワークについて グループワークの展開過程について理解します	個人
14	直接援助技術⑧	記録について 記録・スーパービジョンについて理解します	個人
15	まとめ	人間関係とコミュニケーションについて	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% レポート　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座1　人間の理解
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
人間関係とコミュニケーション(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目	佐々木　謙太朗 通所介護等（介護福祉士）7年勤務	佐々木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	通年	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

社会福祉専門職者として、介護を必要とする方にかかわる態度・姿勢のあり方について理解します
そのために、バイステック7原則を中心に授業をすすめていきます

【学習目標（到達目標）】

①「自立性」と「自律性」について理解する
②「自己覚知」を理解する
③「人間関係の形成」「対人援助の重要性」を理解する

【受講して得られる力】

考え抜く力
前に踏み出す力
チームで働く力
人間関係とコミュニケーション

【履修上の注意】 主体的に参加しましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	介護福祉士とコミュニケーションについて シラバスについて理解します	個人
2	いろいろな社会福祉援助①	自己覚知 自分の価値観について知る	個人
3	いろいろな社会福祉援助②	他者理解 自分の価値観と相手の価値観を比較する	個人
4	いろいろな社会福祉援助③	チームワーク 「協働」をする意義	個人
5	コミュニケーション①	コミュニケーション 効果的なコミュニケ-ションについて理解する①	個人
6	コミュニケーション②	コミュニケーション 効果的なコミュニケ-ションについて理解する②	個人
7	利用者理解①	受容と傾聴 受容と傾聴の意味を理解する	個人
8	利用者理解②	自分の考えを相手に伝える 事例を通して判断力を養う	個人
9	利用者理解③	利用者理解 ストレングス視点の考え方と方法を学ぶ	個人
10	利用者理解④	利用者理解 エコロジカル視点の考え方と方法を学ぶ	個人
11	社会福祉支援の方法①	社会福祉支援 事例を通して具体的な支援方法を導き出す	個人
12	社会福祉支援の方法②	社会福祉支援 事例を通して具体的な支援方法を導き出す	個人
13	社会福祉支援の方法③	社会福祉支援 事例を通して具体的な支援方法を導き出す	個人
14	自立と依存	自立(自律)と依存 自立(自律)と依存の意味と関係について考察する	個人
15	まとめ	人間関係とコミュニケーションについて	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% レポート　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座1　人間の理解
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 予習・復習をしましょう。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
ケアマネジメント論 ※実務経験のある教員の授業科目	窪木　守 特別養護老人ホーム（介護福祉士）14年勤務	窪木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

ケアマネジメントの全体像について説明できるようになるために、①ケアマネジメントの理念②目的③ケアマネジャーについて学びます。福祉専門職・他の専門職との連携の必要性と現状について理解し、ケアマネジメントにおける介護福祉士の役割についても説明できるようになります

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①基礎理論について理解できる ②演習をとおしてアセスメントの理解を深める ③ケアマネジメントとは何か理解できる	考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力 介護の基本

【履修上の注意】　分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	ケアマネジメントの概要について	ケアマネジメントの起こり、必要性、目的と焦点について ケアマネジメントの概要について理解できます	個人
2	ケアマネジメントの構造について	ケアマネジメントの定義と構成要素について ケアマネジメントの構造について理解できます	個人
3	ケアマネジメントの過程について	入口から監視及びフォローアップまでの一連の過程について ケアマネジメントの過程について理解できます	個人
4	生活ニーズと社会資源①	ケアマネジャーについて ケアマネジャーとして求められる姿勢、知識、技術について学びます	個人
5	生活ニーズと社会資源②	社会資源について 社会資源の類型と内容について理解できます	個人
6	生活ニーズと社会資源③	ICFについて 介護計画作成の基本について理解できます	個人
7	アセスメント①	アセスメントの目的、段階、情報収集、具体的な項目について アセスメントについて理解できます	個人
8	アセスメント②	アセスメントの実際について 事例を通してアセスメントの実際について理解できます	個人
9	介護サービスの概要 （介護保険のサービスの種類）	介護保険のサービスの種類について 介護保険制度の下における介護について理解できます	個人
10	介護サービスの概要 （組織・団体の役割）	介護保険制度における組織・団体の役割について 国・都道府県・市町村の役割について学びます	個人
11	介護サービスの概要 （介護サービス提供の場の特性）	生活の特性について 地域（居宅・施設）の特性について学びます	個人
12	介護福祉士とケアマネジメント①	ケアプランと介護計画の関連性と、多職種との連携の必要性について ケアマネジメントにおける介護福祉士の役割と機能を理解できます	個人
13	介護福祉士とケアマネジメント②	ケアプランと介護計画の関連性と、多職種との連携の必要性について ケアマネジメントにおける介護福祉士の役割と機能を説明できます	個人
14	介護福祉士とケアマネジメント③	ケアプランと介護計画の関連性と、多職種との連携の必要性について ケアマネジメントにおける介護福祉士の役割と機能を説明できます	個人
15	まとめ	学習の振り返り	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%

【教科書】	担当教員が指示します
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
看取りのケアとグリーフケア ※実務経験のある教員の授業科目		星　亜矢子 病院（看護師）25年勤務			星
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

看取りの場は、看取るものにとっても看取られるものにも生老病死の意味を確かめ、限りあるいのちをみつめる機会でもある、終末期のさまざまな変化を理解し、対応できる介護力と、死別後のグリーフケアを学ぶ

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①終末期にある人の身体的･精神的･社会的･霊的苦痛について理解する ②家族も介護の対象としてとらえることができる ③死生観をみつめ直す	考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力

【履修上の注意】	分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	看取りのケアを学ぶ意義	終末期ケア、ターミナルケア、エンドオブライフケア 日本の看取りの文化を知る、本人・家族の望むケア	個人
2	人生の最終段階に関する死のとらえ方	高齢者の生物学的な死、法律的なケア、臨床的なケア 加齢に伴う自然な死の理解	個人
3	終末期にある人の援助と介護の役割	看取りに関わる人の価値観、終末期のアセスメント ターミナルケアのポイント	個人
4	人生最終段階における医療・ケアのあり方	症状コントロール、コミュニケーション、医療とケアの話し合いのプロセス 家族への援助	個人
5	死に対するこころの理解	介護者の負担軽減・精神的サポート 死生観、死の受容プロセス、、グリーフケア	個人
6	終末期から危篤状態	身体機能の特徴・臨終期の対応	個人
7	死後のからだの理解	死後の体の変化、バイタルサインの変化、死後の連絡	個人
8	死の受容を考える（1）	映像資料を見てかかわり方についてグループワーク	個人
9	死の受容を考える（2）	緩和ケア病棟の日常の映像資料をみて理解する	個人
10	終末期における医療職との連携	呼吸困難時、人工呼吸器装着、在宅酸素、痰の吸引、疼痛緩和	個人
11	多職種連携	デスカンファレンス、終末期における多職種の役割	個人
12	看取りの心得と作法	エンゼルケア映像資料を視聴し理解する	個人
13	グリーフケア	遺された家族の悲嘆へのケア	個人
14	葬送儀礼	死後の処置時の儀礼的行為･宗教別儀礼の心得と作法・死にともなう手続き	個人
15	まとめ	災害時の避難所高齢者の生きるについて映像資料を視聴し理解する	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座１１　こころとからだのしくみ
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
居住環境学	松井　壽則	佐藤

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

住まいが備えている役割，求められる機能を概括し住まいの中での生活を分解し住まいに反映させる様々な行為・行動から空間の必要性と住まい方について講義と演習を行なう。授業の進行を大きく3分割する。 始めに，自身の生活を見定め生活の仕組みを理解する。次に健康的な生活を送るための環境要因について考える。最後に安全・安心を視点に入れ，住環境に対するバリアフリーデザインを確認する。

【学習目標(到達目標)】

①住まいの基本的事項を理解できる
②安全、安心、快適、健康をキーワードとした住まいを理解できる
③バリアフリー環境に関する概念の把握と身体的機能の低下および障害を目した住空間の改造計画を考えることができる

【受講して得られる力】

考え抜く力
前に踏み出す力
生活支援技術

【履修上の注意】 分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	ガイダンス	住まいの捉え方 各人の捉え方を理解できる	個人
2	「すまいと住生活行為」	住まいの変遷，役割，生活構造，生活行為 機能分化の流れと現在求められている機能・役割について理解できる	個人
3	「住生活行為と生活空間」	タイムテーブル、行為の抽出 自身の生活を分析をし動作を抽出することができる	個人
4	「住生活行為と生活空間」	タイムテーブル、行為の抽出 動作をまとめ行為をつくることができる	個人
5	「生活空間の構成」	ライフサイクル、起居様式	個人
6	「健康とすまい」(1)	室内気候、日照・日射	個人
7	「健康とすまい」(2)	採光，照明，色彩	個人
8	「住宅の性能(安全性)」	不慮の事故(家庭内事故)	個人
9	「バリア・フリーとは」	障壁、障害の把握	個人
10	「バリア・フリーとは」	身の回りのﾊﾞﾘｱ、公共空間のﾊﾞﾘｱ	個人
11	「バリア・フリー住宅」	高齢化対応住宅(長寿社会対応住宅設計指針をもとに)	個人
12	「バリア・フリー住宅」	高齢化対応住宅、障害者住宅の事例	個人
13	「住宅改修・改造」	住宅改修・改造の考え方とその事例	個人
14	「ユニバーサルデザインとバリアフリーデザイン」	BFの流れとUDの理解	個人
15	まとめ	学習の振り返り	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	筆記試験　100%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座6　生活支援技術Ⅰ
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
機能の維持及び回復 ※実務経験のある教員の授業科目	十文字　雄一 病院（理学療法士）10年勤務	佐藤(篤)

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

介護福祉士は常に自立支援を考え援助を行います。この科目ではリハビリテーション医療の基本的な知識・技術を、学びます。自立支援の観点から、機能を維持及び回復の具体的な支援方法を演習を中心に展開します

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①日常生活援助とは何か理解できる ②機能維持について理解できる ③回復とは何か理解できる	考え抜く力 前に踏み出す力 チームで働く力 生活支援技術

【履修上の注意】　実技を実施する場合があります。動きやすく清潔な服装で臨んでください。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	「機能維持及び回復」について	「機能維持及び回復」を学ぶ意義を理解する 人体の構造を理解し残存能力とは何かを知る	個人
2	「機能維持及び回復」と介護福祉士①	介護福祉士とリハビリテーション専門職の連携について理解する チームワークの原点に焦点をあてて，それぞれの役割について理解する	個人
3	「機能維持及び回復」と介護福祉士②	介護福祉士とリハビリテーション専門職の連携について理解する チームワークの原点に焦点をあてて，それぞれの役割について理解する	グループワーク
4	機能の評価について	介護福祉士ができる機能の評価について知る 関節可動域の検査等の評価について学ぶ	個人
5	運動療法①（演習）	介護福祉士ができる運動療法を知る ROM訓練、関節可動域テストとストレッチの実技を行う	ペアまたはグループ
6	運動療法②（演習）	介護福祉士ができる運動療法を知る 筋力増強訓練、筋力強化・持久力増強の理論と実際	ペアまたはグループ
7	運動療法③（演習）	介護福祉士ができるバランス運動療法を学ぶ バランス訓練などの実技を行う	ペアまたはグループ
8	物理療法①	物理療法について理解できる 物理療法の目的・各種療法について学ぶ	個人
9	物理療法②（演習）	物理療法の実際を学ぶ 温熱・寒冷療法を体験し学ぶ	ペアまたはグループ
10	物理療法③（演習）	物理療法の実際を学ぶ 電気・光線療法を体験し学ぶ	ペアまたはグループ
11	慢性呼吸器疾患に対して	慢性呼吸器疾患に対する理学療法の実際を学ぶ 慢性呼吸器疾患に対する呼吸法・体位・肺痰法	個人
12	日常生活活動訓練①（演習）	介護福祉士のできる日常生活動作訓練を学ぶ 「立つ」・「座る」の動作訓練、バランス訓練、介護のポイント	ペアまたはグループ
13	日常生活活動訓練②（演習）	介護福祉士のできる日常生活動作訓練を学ぶ 「起きる」の動作訓練、介護のポイント	ペアまたはグループ
14	日常生活活動訓練③（演習）	介護福祉士のできる日常生活動作訓練を学ぶ 「歩く」の動作訓練	ペアまたはグループ
15	まとめ	学習の振り返り	個人

期末試験	評価方法		
実施しない。	課題の達成度	20%	
	レポート	80%	

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座11　こころとからだのしくみ
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　配布資料を中心に復習を行ってください。

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
介護福祉研究方法 ※実務経験のある教員の授業科目	佐々木　謙太朗 通所介護等（介護福祉士）7年勤務	佐々木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

介護福祉研究において、最も必要な問題意識を高める方法を習得するために、問題を整理しまとめる力を身につけ、あわせて介護に関する研究を社会的、心理的、身体的な側面から整理できる方法を身につける。さらに、問題を全体的に考察する方法を習得する

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①　介護福祉士に必要な研究方法を理解できる ②　実習等の事例から介護を必要とする方の自律に向けた援助方法を評価・考察より理解できる ③　知識・理論・実践を融合させていくことができる	前に踏み出す力 課題発見力 創造力 計画力

【履修上の注意】　主体的に参加しましょう。

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	介護福祉研究方法の理解	介護福祉研究の意義　研究するということ　問題意識の発掘 レポートの書き方　感想文と研究論文の違い	個人
2	研究との出会い①	日常生活からの気づきを形にする レポートの書き方　感想文と研究論文の違い	個人
3	研究との出会い②	自分と語り合う　書くということ 共同研究　文献研究	個人
4	研究との出会い③	プレゼンテーションの準備 研究の出発点　　気づき　関心　疑問をもつ	個人
5	研究計画書をつくってみよう①	研究テーマを考える アイデアを形にする　仮説　アウトラインを描く　マインドマップ	個人
6	研究計画書をつくってみよう②	研究計画書作成 研究方法	個人
7	研究計画書をつくってみよう③	研究テーマ発表 振り返り	個人
8	事例研究①	自分でテーマを決めて書いてみよう 研究計画書（研究過程）	個人
9	事例研究②	論文筆記のルール 用語の定義　注記　引用文献　参考文献	個人
10	事例検討①	事例① 個人ワーク　　グループワーク　　振り返り	グループ
11	事例検討②	事例② 意見交換	グループ
12	事例研究③	事例③ 個人ワーク　　グループワーク　　振り返り	グループ
13	事例研究④	事例研究　ロールプレイ 個人ワーク　　グループワーク　　振り返り	グループ
14	まとめ①	研究発表	個人
15	まとめ②	学習の振り返り	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% レポート　40%

【教科書】	なし
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
内部障害者の介護過程 ※実務経験のある教員の授業科目	相楽　愛美 特別養護老人ホーム等（介護福祉士）7年勤務	相楽

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

内部障害者における医療領域の理解と、医療機器の取り扱い方法を学習する。日常生活において内部障害をもつ人の生活を理解し、どのように介護福祉士が介護過程を展開していく必要があるのかを考え、実践できる知識、技術を習得する。

【学習目標（到達目標）】

①内部障害者の特性に応じた介護の知識や具体的な援助技術の習得、医療との連携方法を理解できる

②内部障害をもった方の生活を理解し、介護福祉士の視点を持って介護過程を展開できる

③家族への支援方法を理解できる

【受講して得られる力】

生活支援技術
コミュニケーション技術
考え抜く力
介護過程

【履修上の注意】　主体的に参加しましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	生活習慣病者の介護	生活習慣病の介護を理解できる 生活習慣病による障害の原因症状，生活の諸問題を学ぶ	個人
2	心臓機能障害に応じた介護	心臓機能障害者の介護を理解できる 心臓機能障害者による障害の原因，症状，主な症状，生活の諸問題を学ぶ	個人
3	心臓機能障害に応じた介護	心臓機能障害者のアセスメントを知る(健康状態の観察方法等) 心臓機能障害者の介護を理解できる生活場面での介護技術を学ぶ(ペースメーカー装着者等)	個人
4	呼吸機能障害に応じた介護	呼吸機能障害者の介護を理解する 呼吸機能障害者による障害の原因,症状,主な症状,生活の諸問題を学ぶ	個人
5	呼吸機能障害に応じた介護	呼吸機能障害者の介護を理解する 呼吸機能障害者の生活を理解する(吸引法)について	個人
6	腎機能障害に応じた介護	腎機能障害者の介護を理解する 腎機能障害による障害の原因、症状、主な症状、生活の諸問題を学ぶ	個人
7	腎機能障害に応じた介護	腎機能障害者の介護を理解する 腎機能障害者の生活を理解する	個人
8	膀胱，直腸機能障害に応じた介護	膀胱・直腸機能障害者の介護を理解する 膀胱・直腸機能障害による障害の原因、症状、主な症状、生活の諸問題を学ぶ	個人
9	小腸機能障害に応じた介護	小腸機能障害者の介護を理解する 小腸機能障害による障害の原因、症状、主な症状、生活の諸問題を学ぶ	個人
10	HIVによる免疫機能障害に応じた介護	HIVによる免疫機能障害について医学的・心理的側面から理解する 障害の原因、主な症状,生活の諸問題を学ぶ	個人
11	肝臓機能障害に応じた介護	肝機能障害者の介護を理解する 肝機能障害による障害の原因,主な症状,生活の諸問題を学ぶ	個人
12	難病のある人の介護	難病のある人の生活を理解する 難病のある人の特性に応じた症状,生活の諸問題を学ぶ	個人
13	難病のある人の介護	難病のある人の特性に応じた生活支援について学ぶ	個人
14	連携と協働	地域のサポート体制について理解する チームアプローチ,チームづくりの方法等について学ぶ	個人
15	家族の支援	障害のある人の家族への支援について理解する 家族の介護力の評価と介護負担の軽減について学ぶ	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座8　生活支援技術Ⅲ
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
視覚・聴覚障害者の介護過程 ※実務経験のある教員の授業科目	佐々木　謙太朗 通所介護等（介護福祉士）7年勤務	佐々木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

視覚・聴覚障害者の原因・症状・生活上の問題、原因となる疾患を理解し、視覚・聴覚障害者の方に対する介護過程の展開方法について学習します

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①視覚・聴覚障害を起す原因となる疾患を理解する ②視覚・聴覚障害が身体的・精神的影響を与えるかを理解し個々に応じた介護技術ができる ③視覚・聴覚障害をもった方の生活の特性を理解する ④障害の特性に応じ、介護福祉士の視点を持って介護過程を展開できる	介護過程 コミュニケーション技術 考え抜く力 チームで働く力 前に踏み出す力

【履修上の注意】　主体的に参加しましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	視覚・聴覚の基礎知識を理解する 視覚・聴覚障害者の介護過程を学ぶ意義、目的を理解する	個人・ペア・グループ
2	視覚障害者の介護	視覚障害の関連医学領域の基礎知識を理解する 視覚障害者の主な眼疾患、眼の構造と機能について説明できる	個人
3	視覚障害者の介護 （演習）	視覚障害者の生活を理解する 視覚障害を体験し、介護の留意点について理解する	個人・ペア・グループ
4	視覚障害者の介護 （演習）	視覚障害者の生活の理解 視覚障害者体験：白状使用の方法を理解する	個人・ペア・グループ
5	視覚障害者の介護 （演習）	視覚障害者の生活の理解 体験：食事介助から障害者の理解と介護の方法を身に付ける	個人・ペア・グループ
6	視覚障害者の介護	先天性・後天性の視覚障害者の心理的プロセスを理解する 中途視覚障害者の心理的理解について学ぶ	個人
7	視覚障害者の介護	視覚障害者の介護過程について学ぶ	個人・グループ
8	聴覚障害者の介護	聴覚障害関連医学領域の基礎知識、耳の構造と機能について理解する。聴覚障害者のコミュニケーション手段について学ぶ	個人・ペア・グループ
9	聴覚障害者の介護	聴覚障害者の生活を理解する 聴覚障害者の生活の実施を学ぶ	個人・ペア・グループ
10	言語障害者の介護	言語障害と関連医学領域の基礎知識、音声器官の構造と機能について理解する。失語症の理解とコミュニケーションについて学ぶ	個人・ペア・グループ
11	言語障害者の介護	言語障害者の生活を理解する	個人
12	視覚・聴覚障害者の介護過程	コミュニケーションツールについて調べる	個人・ペア・グループ
13	視覚・聴覚障害者の介護過程	視覚・聴覚障害者の介護過程が展開できる	個人・グループ
14	視覚・聴覚障害者の介護過程	視覚・聴覚障害者の介護過程が展開できる	個人・グループ
15	まとめ	視覚・聴覚障害者の介護過程のまとめ	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	受講態度　60% 筆記試験　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座14　障害の理解
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
総合演習Ⅲ ※実務経験のある教員の授業科目	佐々木　謙太朗 通所介護等（介護福祉士）7年勤務	佐々木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

実習Ⅰを振り返り、学校生活で学んだ知識･技術･態度･倫理を具体的かつ実際的に理解できるようになり、基礎技術を応用した実践的な介護福祉援助活動を学び、介護過程のアセスメントを実施する

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①施設生活者の生活を支える介護過程についてアセスメントを実施し、生活支援の基礎を学ぶ ②福祉専門職としての自己の課題を明確化できる ③当面の目標に関して適切に自己評価できる	生活支援技術 コミュニケーション技術 考え抜く力 チームで働く力 前に踏み出す力

【履修上の注意】　実習要項を熟読し実習の流れを理解する

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	実習Ⅱの目的とねらいの理解	実習Ⅱの目的とねらいについて 実習計画書を作成し実習Ⅱにむけて準備をする	個人・ペア・グループ
2	介護実習の施設について	介護実習における施設について学ぶ 施設介護実習における施設の種類とサービス内容を理解する	個人
3	介護福祉士と介護の理解	高齢者福祉 高齢者への福祉サービスの体系と内容について理解する	個人・ペア・グループ
4	実習Ⅱの目的と課題	対象者の生活の全体像を把握し、説明できる。 アセスメントを体験することで専門性を深めることができる	個人・ペア・グループ
5	実習事前準備	実習事前準備 実習内容の確認と準備物・課題・記録等を準備する	個人・ペア・グループ
6	社会福祉従事者と福祉資格制度	社会福祉の分野で働く専門職員の役割について理解する	個人
7	介護過程について	様々な障害を抱えている介護が必要な方の介護過程の展開ができる	個人
8	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる 情報収集・分析･統合の過程を理解する	個人・ペア・グループ
9	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる 情報収集・分析･統合の過程を理解する	個人・ペア・グループ
10	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる まとめた情報から課題の明確化を図る	個人・ペア・グループ
11	アセスメント	記録とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる まとめた情報から課題の明確化を図る	個人・ペア・グループ
12	実習振り返り･自己評価	アセスメント分析と評価ができる	個人・ペア・グループ
13	実習振り返り･自己評価	アセスメントについて理解する	個人・ペア・グループ
14	実習反省会･自己評価	アセスメントの発表と自己課題の明確化ができる	個人・ペア・グループ
15	まとめ	実習自己評価、振り返りの実施できる	個人・ペア・グループ

期末試験	レポート	評価方法	レポート　80% 課題の達成度　20%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座　9　介護過程、10　介護総合演習・介護実習
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	実習準備

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
総合演習Ⅳ ※実務経験のある教員の授業科目	佐々木　謙太朗 通所介護等（介護福祉士）7年勤務	佐々木

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

状況に応じた適切な介護をするために、これまで学んできた学習内容をまとめていく

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①介護過程の展開を行う ②対象者の生活や特性を理解し、あらゆる介護場面に応じた介護実践能力を養う ③安全に配慮した介護を実践できる能力を養う。	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術

【履修上の注意】　実習要項を熟読し実習の流れを理解する

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	実習Ⅱの目的とねらいの理解	実習Ⅱの目的とねらいについて 実習計画書を作成し実習Ⅱに臨む	個人
2	介護福祉士と実習	高齢者を対象とした介護過程の展開を学ぶ 介護過程におけるアセスメントを理解する	個人
3	介護福祉士と実習	障害者を対象とした介護過程の展開を学ぶ 介護過程におけるアセスメントを理解する	個人
4	介護福祉士と私	介護福祉士と自分の関係についてまとめることができる	個人
5	介護福祉士と私	介護福祉士としての自分の課題と目的が明確化できる	個人
6	アセスメント	対象者とアセスメントについて、実習計画に基づいて自己評価できる 介護計画のアセスメントとニーズの導き	個人
7	アセスメント	対象者とアセスメント・ケアプランについて、実習計画に基づいて自己評価できる 介護計画のアセスメントとニーズの導き	個人
8	介護計画	対象者とアセスメント・ケアプランについて、実習計画に基づいて自己評価できる 介護計画の立案	個人
9	介護計画	ケアプランの実施について内容を報告できる 介護計画の立案	個人
10	評価と再アセスメント	ケアプランの評価と再アセスメント	個人
11	実習反省会･自己評価	実習のまとめと自己課題の明確化	個人
12	介護過程レポートをまとめる	介護過程レポートの作成と作成計画について 実習Ⅱを振り返り、資料を準備する	個人
13	介護過程レポートをまとめる	介護過程レポートの作成	個人
14	介護過程レポートの発表	実習報告	個人
15	実習報告会･自己評価	実習報告	個人

期末試験	レポート	評価方法	レポート　80% 課題の達成度　20%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう(実技練習)

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
実習Ⅱ(1/2) ※実務経験のある教員の授業科目		佐々木　謙太朗 通所介護等(介護福祉士)7年勤務			佐々木
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	250時間	演習・実習	6

【授業の概要・目的】

様々な生活の場において個別ケアを理解し、介護を必要する方、そのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する実習とする

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①施設生活者の生活を支える介護過程についてアセスメントを実施し、生活支援の基礎を学ぶ ②福祉専門職としての自己の課題を明確化し、当面の目標に関して適切に自己評価できる ③介護過程の実践について理解できる	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術

【履修上の注意】	特になし

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	介護実習施設・事業Ⅱに区分される施設、事業所における学外実習 (介護福祉学科教員)	学習の主題: ①介護を必要とする方の生活能力に応じた日常生活支援を提供する ②介護を必要とする方が、生活する環境について知り、その重要性について理解する ③多職種の役割と、多職種の連携について理解する ④対象者を選定し日常生活支援等のかかわりをとおして得た情報を整理、全体像を把握し、生活上のニーズについて考察する 学習課題: ①介護を必要とする方一人ひとりの個別性や生活リズムを理解する ②日常生活支援の実践を通して、一人ひとりの生活能力に合わせた支援方法について理解する ③日常生活支援における環境の重要性について理解する ④多職種の役割、連携について理解する ⑤日常生活支援の実践、ケアカンファレンス等への参加から、介護過程の展開を考察する ⑥変則勤務時間をとおし施設・事業所の生活を理解する ⑦対象者を選定し、かかわりから得た情報を介護過程レポートにまとめ、その方の全体像を把握し、生活上のニーズを考察する	個人
2			個人
3			個人
4			個人
5			個人
6			個人
7			個人
8			個人
9			個人
10			個人
11			個人
12			個人
13			個人
14			個人
15			個人

期末試験		評価方法	課題の達成度 20% 実習評価 80%	

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座　9　介護過程、10　介護総合演習・介護実習
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
実習Ⅱ(2/2) ※実務経験のある教員の授業科目		佐々木　謙太朗 通所介護等(介護福祉士)7年勤務			佐々木
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	250時間	演習・実習	6

【授業の概要・目的】

介護支援専門員の経験から、介護を必要とする方に応じた、またその家族とのコミュニケーションの方法論を展開する。チームコミュニケーションについて理解する

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①障害に応じたコミュニケーションの方法を理解できる ②多職種協働におけるコミュニケーションのあり方について理解できる ③介護計画を立案・実施することができる	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術

【履修上の注意】	特になし

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	介護実習施設・事業Ⅱに区分される施設、事業所における学外実習 (介護福祉学科教員)	学習の主題: ①施設運営や施設介護サービス、チームの一員としての介護福祉士の専門性を理解できる ②あらゆる日常生活支援場面において、介護を必要とされる方の生活能力に合わせ、もてる力を活用、発揮できるように、的確な生活支援技術を選択、提供できる能力を身につける ③日常生活支援やケアカンファレンス等をとおして、施設における、多職種協動チームアプローチの方法を理解し、チームの一員として日常生活支援を提供できる能力を身につける ④介護過程の展開をとおして、介護を必要とされる方の生活する上でのニーズを明確に把握し、その人らしく、心地よく生活を送れるように、介護計画を立案･実施･評価できる能力を身につける 学習課題: ①様々な場面の日常生活支援の実践を通し、介護を必要とされる方一人ひとりの生活能力に応じた適切な日常生活支援を選択、提供できる ②実習指導者の助言のもと対象者を選定する ③対象者の情報をアセスメントし、対象者の全体像を把握できる ④対象者の全体像から、生活上のニーズをとらえ、実習指導者指導のもと、介護計画を立案できる ⑤介護計画に基づいた支援内容を実施し、支援中の経過を記録することができる ⑥介護計画に基づいた支援内容を実施し、随時評価・修正を行う	個人
2			個人
3			個人
4			個人
5			個人
6			個人
7			個人
8			個人
9			個人
10			個人
11			個人
12			個人
13			個人
14			個人
15			個人

期末試験		評価方法	課題の達成度	20%	
			実習評価	80%	

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座　9　介護過程、10　介護総合演習・介護実習
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
介護と医療的ケア ※実務経験のある教員の授業科目	星　亜矢子 病院（看護師）25年勤務	星

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

看護の臨床経験を生かし介護福祉の現場においては、介護福祉士が医療行為に関わる事が多くなっている中、正常と異常を適切に判断し、医療関係職種との連携ができることが求められている。その知識を持って医療職との協働することを学ぶ。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①内部障害者の特性に応じた介護の知識や具体的な介護の援助技術の習得、及び医療との具体的な連携方法を理解できる ②内部障害をもった方の生活を理解し、介護福祉士の視点を持って介護過程を展開できる ③介護と医療的ケアの必要性について理解できる	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 医療的ケア

【履修上の注意】　実技演習の際は必ず実習着を着用しましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	オリエンテーション	生活における介護と医療行為について 医療行為範囲外11項目について	個人
2	日常生活における健康の支援	健康状態の観察（バイタルサインチェックの方法） 体温、脈拍、呼吸、血圧、酸素飽和度の測定方法	個人
3	緊急時の対応（講義）	緊急時の対応についての理解 介護において予想される緊急時の対応について学ぶ	個人
4	緊急時の対応（演習）	緊急時の対応についての理解 演習にて、気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ・AEDの使用方法について理解する	個人
5	緊急時の対応（演習）	緊急時の対応についての理解 演習にて、気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ・AEDの使用方法について理解する	個人
6	日常生活における外傷時の支援	創処置の方法、消毒液の効用 切り傷、擦り創、熱傷の処置の方法	個人
7	生活における薬の自己管理	薬の自己管理の方法を学ぶ 内服薬・外用薬等処方された薬の自己管理の方法を理解する	個人
8	生活における薬の自己管理	薬の自己管理の方法を学ぶ 内服薬・外用薬等処方された薬の自己管理の方法を理解する	個人
9	経管栄養のある方の生活支援	経管栄養のある方の経管栄養の方法と留意点の理解と介護 経管栄養のある方の経管栄養の方法と留意点について	個人
10	日常生活における爪切りと耳垢の除去の支援	爪切り・耳垢の除去の方法と留意点を理解と介護 爪切り・耳垢の除去の方法と留意点を理解する	個人
11	日常生活における爪切りと耳垢の除去の支援	爪切り・耳垢の除去の方法と留意点を理解と介護 爪切り・耳垢の除去の方法と留意点を理解する（事例を通して演習）	個人
12	日常生活における排便コントロールの介護	日常生活における排泄コントロールのとれない方の理解と介護 便秘に対する、浣腸の手順と留意点を理解する	個人
13	人工肛門のある方の生活支援	人工肛門のある方のストマ装着の理解と介護 パウチの排泄物除去の方法について	個人
14	排尿障害のある方の自立に向けた排泄の介護	排尿障害のある方の自己導尿の方法の理解 自己導尿の手順と留意点を理解する	個人
15	まとめ	学習の振り返り	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座15　医療的ケア
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
喀痰の吸引 ※実務経験のある教員の授業科目	星　亜矢子 病院（看護師）25年勤務	星

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

看護の臨床経験を生かし、医療行為を必須としながら、自宅であるいは施設で生活している介護を必要とする人は増え続けている。介護を必要とする人の生活支援を担う介護福祉士が生活支援の延長として限定された医療行為の限られた一部をを行うことになる。医師および看護職員と連携を図り、適切に医療的ケア（痰の吸引）を実施することが求められる。介護福祉士が担う痰の吸引の基本を学ぶ。

【学習目標（到達目標）】

①シミュレーターを使用し痰の吸引(口腔内)を一人で適切に実施することができる
②シミュレーターを使用し痰の吸引(鼻腔内)を一人で適切に実施することができる
③シミュレーターを使用し痰の吸引(気管カニューレ内)を一人で適切に実施することができる

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
チームで働く力
考え抜く力
医療的ケア

【履修上の注意】　実技演習の際は必ず実習着を着用しましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論（1）	痰の貯留を示す状態と喀出するしくみ、および痰の吸引が必要な状態を説明できる 人工呼吸器が必要な状態を説明できる	個人
2	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論（2）	人工呼吸器のしくみと生活支援における留意点、および吸引時の留意点を説明できる 人工呼吸器装着者の呼吸管理に関する医師・看護職員と連携の必要性と連携内容を説明できる	個人
3	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論（3）	子どもの吸引に関する留意点を説明できる 介護を必要とする人・家族の吸引に対する気持ちにそった対応をするために必要なことを説明できる	個人
4	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論（4）	吸引の実施の関するインフォームドコンセントの必要性、説明内容と方法を説明できる 呼吸器系に感染が起きた可能性を示す状態を言え、感染を予防するために実施すべきことを説明できる	個人
5	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論（5）	痰吸引により生じる危険の種類と危険を防止するための留意点が言え、危険防止のために必要な医師・看護職員との連携の仕方を説明できる 緊急を要する状態（症状）を言える	個人
6	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論（6）	急変・事故発生時に実施すべき対応を説明できる 急変・事故発生時の医師・看護職員との連携体制を事前に共有することの重要性と対策の内容を説明できる	個人
7	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説（1）	吸引の必要物品を整え、そのしくみを説明し、清潔に管理できる 必要物品の準備・設置方法と留意点を説明できる	個人
8	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説（2）	吸引前の状態の観察項目と観察方法を説明できる 介護を必要とする人の吸引の準備（体位・プライバシーの保護）と留意点を説明できる	個人
9	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説（3）	吸引実施手順と吸引時の留意点を説明できる 吸引時の介護を必要とする人の状態変化の確認項目と医師・看護職員への報告の必要性を説明できる	個人
10	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説（4）	吸引後の吸引物の確認項目と医師・看護職員への報告の必要性を説明できる 吸引後の片づけの方法と留意点を説明できる	個人
11	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説（5）	痰を出しやすくするケア・体位を整えるケアを説明できる 口腔内のケアを説明できる	個人
12	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説（6）	報告・連絡の方法、記録の意義、記録の内容を説明できる まとめ	個人
13	基本研修（口腔内吸引演習）	シミュレーターを用いて口腔内の吸引を習得する	個人
14	基本研修（鼻腔内吸引演習）	シミュレーターを用いて鼻腔内の吸引を習得する	個人
15	基本研修（気管カニューレ内吸引演習）	シミュレーターを用いて気管カニューレ内の吸引を習得する	個人

期末試験	実技試験	評価方法	授業への貢献　60% 実技試験　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座15　医療的ケア
【参考書】	

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
経管栄養 ※実務経験のある教員の授業科目	星　亜矢子 病院（看護師）25年勤務	星

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

看護の臨床経験を生かし医療行為を必須としながら、自宅であるいは施設で生活している介護を必要とする人は増え続けている。介護を必要とする人の生活支援を担う介護福祉士が生活支援の延長として限定された医療行為の限られた一部をを行うことになる。医師および看護職員と連携を図り、適切に医療的ケア（経管栄養）を実施することが求められる。介護福祉士が担う経管栄養の基本を学ぶ。

【学習目標（到達目標）】

①シミュレーターを使用し、経管栄養(経鼻経管栄養)を一人で適切に実施することができる
②シミュレーターを使用し、経管栄養(胃瘻)を一人で適切に実施することができる
③シミュレーターを使用し、経管栄養(腸瘻)を一人で適切に実施することができる

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
チームで働く力
考え抜く力
医療的ケア

【履修上の注意】　実技演習の際は必ず実習着を着用しましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	高齢者および障害児・者の経管栄養概論（1）	経管栄養が必要な状態・経管栄養のしくみと経管栄養の種類を説明できる 栄養摂取と水分摂取の必要性を説明できる	個人
2	高齢者および障害児・者の経管栄養概論（2）	経管栄養で注入する内容について説明できる 経管栄養実施上の留意点を説明できる	個人
3	高齢者および障害児・者の経管栄養概論（3）	子どもの経管栄養の実際に関する留意点を説明できる 経管栄養を行っている介護を必要とする人の消化器感染の可能性を示す状態（症状）を言える	個人
4	高齢者および障害児・者の経管栄養概論（4）	経管栄養を行っている状態で感染予防として実施すべきことを説明できる 口腔ケアの必要性を説明できる	個人
5	高齢者および障害児・者の経管栄養概論（5）	介護を必要とする人および家族の気持ちを理解し、経管栄養実施のインフォームドコンセントの必要性と説明内容や方法を説明できる 経管栄養により生じる危険防止の留意点・危険防止のため医師・看護職員との連携のしかたを説明できる	個人
6	高齢者および障害児・者の経管栄養概論（6）	ヒヤリハット・アクシデントをレポートできる 緊急を要する状態（症状）を言える	個人
7	高齢者および障害児・者の経管栄養概論（7）	急変・事故発生時に実施すべき対応を説明できる 急変・事故発生時の医師・看護職員との連携体制を共有していることの重要性と対策の内容を説明できる	個人
8	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説（1）	経管栄養のの必要物品を整え、そのしくみを説明し、清潔に管理できる 必要物品の準備・設置方法と留意点を説明できる	個人
9	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説（2）	経管栄養実施前の状態の観察項目と観察方法を説明できる 介護を必要とする人の経管栄養の準備（体位・プライバシーの保護）と留意点を説明できる	個人
10	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説（3）	経管栄養の実施手順と注入中の留意点を説明できる 経管栄養実施時の介護を必要とする人の状態変化の確認項目と医師・看護職員への報告の必要性を説明できる	個人
11	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説（4）	経管栄養終了後の確認項目と医師・看護職員への報告の必要性を説明できる 経管栄養終了後の片づけの方法と留意点を説明できる	個人
12	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説（5）	消化機能を促進するケア・体位を整えるケアについて説明できる 口腔内や鼻腔のケア・胃瘻（腸瘻）部のケアを説明できる	個人
13	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説（6）	報告・連絡の方法、記録の意義、記録の内容を説明できる まとめ	個人
14	基本研修（経鼻経管栄養演習）	シミュレーターを用いて経鼻経管栄養を習得する	個人
15	基本研修（胃瘻または腸瘻演習）	シミュレーターを用いて胃瘻からの経管栄養を習得する	個人

期末試験	実技試験	評価方法	授業への貢献　60% 実技試験　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座15　医療的ケア
【参考書】	

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
障害の理解 ※実務経験のある教員の授業科目	薄井　俊介 病院（作業療法士）11年勤務	佐藤

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	後期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

介護の現場で対象となる利用者の状況を理解する上で、障害を理解することはとても重要である。本講義ではその障害に視点を置き、障害発生のメカニズムとその対策、さらに介護する上で注意すべき点等を理解する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①「障害」について理解できる ②障害のある人の生活について理解できる ③障害のある人への介護について理解できる	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力

【履修上の注意】	分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	障害の基礎的理解障害の概念	障害のある人の暮らしについて理解を深める	個人
2	障害者福祉の基本理念	障害者の法的定義について理解する 身体・療育・精神障害者福祉手帳制度についてどのようなものか答える事が出来る	個人
3	障害のある人の生活の理解Ⅰ視覚障害のある人の生活	聴覚・言語障害とはどのようなものか理解する 視覚の機能について説明できる	個人
4	障害のある人の生活の理解Ⅰ聴覚・言語障害のある人の生活	視覚障害を引き起こす疾患について説明できる	個人
5	障害のある人の生活の理解Ⅰ肢体不自由のある人の生活	肢体不自由の原因や代表的な障害の障害像について理解する 本人を主体とした介護をするために必要な考え方について学ぶ	個人
6	障害のある人の生活の理解Ⅰ内部障害のある人の生活	内部障害とは何か理解する 各々の疾患についてどのような介護があるべきか理解する	個人
7	障害のある人の生活の理解Ⅱ知的障害のある人の生活	知的障害のある人の地域生活と介護による支援との関係を理解する 知的障害を有する方々との接し方について理解を深める	個人
8	障害のある人の生活の理解Ⅱ精神障害のある人の生活	精神疾患について理解を深める 身体変調と生命の危機について理解を深める	個人
9	障害のある人の生活の理解Ⅱ高次脳障害のある人の生活	高次脳機能障害とは何か理解を深める 高次脳機能障害を有する患者さんとの接し方について理解を深める	個人
10	障害のある人の生活の理解Ⅱ発達障害のある人の生活	発達障害の特性を理解する 発達障害のある人の生活と適切な介護について理解を深める	個人
11	障害のある人の生活の理解Ⅱ重度心身障害のある人の生活	重度心身障害の歴史と定義を理解する 重度心身障害に対する生活特性と介護のポイントを理解する	個人
12	障害のある人の生活の理解Ⅱ難病のある人の生活	運動神経系の難病と、内臓・皮膚・血液系の難病各々の特徴を理解する	個人
13	障害のある人に対する介護	自立に向けた介護の手段について理解を深める	個人
14	家族支援・連携と協働	家族・他職種と連携し、患者さんをサポートしていく理由について理解する	個人
15	まとめ	学習の振り返り	個人

期末試験	レポート	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座14　障害の理解
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
障害者の心理 ※実務経験のある教員の授業科目	羽川　孝幸 病院（作業療法士）7年勤務	佐藤

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

介護専門職者として、障害者の心理と行動に関する実態と様々なケアにおける心理的援助について概説する。

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①障害児者の発達や行動を心理学の視点から理解できる ②障害児者を取り巻く社会や家族との関係性における心理的援助のあり方について理解できる ③障害児者の地域生活支援や家族支援へのアプローチについて理解できる	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力

【履修上の注意】	分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	障害者とは	障害と心理的影響について	個人
2	障害とは	ICIDHとICFについて	個人
3	障害の種類とその程度	身体障害、知的障害、精神障害とそれぞれの特徴	個人
4	行動系機能障害	感覚系、中枢系、運動系機能障害の特徴と心理的支援	個人
5	コミュニケーション障害	言語、聴覚、視覚障害の特徴と心理的支援の方法	個人
6	乳幼児期の発達と早期教育	早期療育と家族支援について	個人
7	学齢期における発達支援と家族	学校や施設での心理教育から見た発達支援について	個人
8	障害者と思春期	思春期における精神的変化	個人
9	障害者と思春期	思春期と性の問題について	個人
10	障害者と青年期	社会参加や就労支援を目指した心理的援助	個人
11	肢体不自由児者の心理的支援	事例検討を中心に	個人
12	知的障害者への心のケア	事例検討を中心に	個人
13	自閉症者へのケア	事例検討を中心に	個人
14	入所・通所施設でのケアプログラム	プログラム作成の演習	個人
15	まとめ	学習の振り返り	個人

期末試験	レポート	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座14　障害の理解
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
心理学	羽川　孝幸	羽川

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

心理学はこころを扱う科学だが，見ることも触れることもできない．しかし，心理学を理解することで人の特徴や成長過程，個性の成り立ちの理解に役立つ．講義を通して自分自身を俯瞰し，対象者に関わる基礎を学ぶ．

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①日常生活や作業療法士としての仕事に役立つヒント・理論を獲得する	考え抜く力
②仕事や生活が円滑に営めるようなコツを学ぶ	知識・理解
③自分を俯瞰して見れる視点を持つ	論理的思考力
④他者とのいい関係性を持てるようになる	
⑤心理学のテクニックを実践できる	

【履修上の注意】予習・復習を心がけてください。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	心理学講義の今後の予定について 心理学の概論・歴史	個人
2	多重知能理論	①知能とは　②多重知能理論 ③ニューロダイバーシティ　④得意なことグループワーク	グループ
3	パーソナリティ心理学	①性格とは　②性格の成り立ち ③類型論・特性論　④グループワーク	グループ
4	パーソナリティ心理学	①認知スタイル　②いろいろな性格理論 ③グループワーク	グループ
5	パーソナリティ心理学	①エゴグラムについて　②TEG-Ⅲ ③なりたい自分について　④グループワーク	グループ
6	認知・学習心理学	①マインドセット　②硬直・しなやかマインドセット ③「GRIT」やり抜く力　④グループワーク	グループ
7	認知・学習心理学	①ものごとの捉え方　②認知理論 ③自動思考　④グループワーク	グループ
8	前半のまとめ	心理学で学んだことを自分の成長にどう生かせるかをグループで検討する	グループ
9	集団・社会心理学	①社会心理学について　②同調行動・群集心理 ③社会的促進　④ステレオタイプ　⑤グループワーク	グループ
10	集団・社会心理学	①コミュニケーション　②リフレーミング ③上手な頼み方　④グループワーク	グループ
11	集団・社会心理学	①関係性　②関係を作る〇〇効果 ③いい集団　④グループワーク	グループ
12	発達心理学	①発達心理学について　②自己効力感・自己有能感 ③アイデンティティ　④グループワーク	グループ
13	発達心理学	①価値観　②メディアの影響　③大人の発達 ④親離れ　⑤グループワーク	グループ
14	心理学のテクニック	日常に活かせる心理学のテクニックについて理解する	グループ
15	人生のつまづき	①知的障害　②発達障害　③精神障害 ④マジョリティとマイノリティ　⑤グループワーク	グループ

期末試験	レポート試験	評価方法	受講態度 50% レポート 50%

【教科書】	特になし
【参考書】	特になし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	他者とのコミュニケーション、良い関係を築く実践をしてください

【本講義に関しての質問先】	科目責任者	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
からだの構造と機能Ⅱ ※実務経験のある教員の授業科目	星　亜矢子 病院（看護師）25年勤務	星

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

介護実践の根拠となる人体の構造や機能を学び対象となる人の健康状態や障害の状況を理解して介護を行うための基礎知識を養う

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①人体の諸器官の構造と機能を理解し，その主な役割を説明できる ②こころとからだのしくみを排泄・睡眠・エンドオブライフ等を日常生活と関連させることが出来る ③終末期と医療職について理解できる	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 こころとからだのしくみ

【履修上の注意】　分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	排泄に関連したしくみ	大腸の構造，直腸と肛門，腎臓，膀胱について学ぶ	個人
2		排泄のしくみ，心身の機能低下が排泄に及ぼす影響について学ぶ	個人
3		変化の気づきと対応について学ぶ	個人
4	清潔に関連したしくみ	皮膚の構造，清潔の意義を理解する	個人
5		心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する	個人
6		変化の気づきと対応について学ぶ	個人
7	睡眠に関連したしくみ	睡眠の経過と睡眠パターン，睡眠と覚醒の機構について理解する	個人
8		心身機能低下が睡眠に及ぼす影響について理解する	個人
9		変化の気づきと対応について学ぶ	個人
10	人生の最終段階のケアに関連したしくみ	死を理解する　生の一部としてのエンドオブライフの考え方について学ぶ	個人
11		終末期から「死」までの変化と特徴，医療職との連携ポイント	個人
12		家族の死を受容する段階と支援について学ぶ	個人
13	ストレスに対処するしくみ	内部環境の恒常性とその乱れ，ストレス時の心身の変化について理解する	個人
14	つなぐ	生殖器と受精，出産と赤ちゃん，乳房の構造と働きについて理解する	個人
15	まとめ	学習の振り返り	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座11　こころとからだのしくみ、15　医療的ケア
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
疾病論 ※実務経験のある教員の授業科目	星　亜矢子 病院(看護師)25年勤務	星

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	後期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

環境衛生の改善、生活習慣の変化にともない疾病構造も変化している。生活習慣病を核に疾病構造を理解し、介護を必要とする人の健康問題理解を深めると共に、学生自身の健康管理・健康習慣を促す。

【学習目標(到達目標)】

①人の成長・発達と高齢者を理解し、人の生涯にわたる変化を理解する
②生活習慣病及び感染症を正しく理解する
③疾病の成り立ちを理解し、疾病による生活の支障を考えることができる
④在宅医療の実情について理解できる

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
チームで働く力
考え抜く力
こころとからだのしくみ

【履修上の注意】　分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	からだの成長と老化	からだの発達成長と老化について理解する 加齢による身体機能の変化について学ぶ	個人
2	感染症	感染症法・主な感染症・日和見感染・施設内感染 について学ぶ	個人
3	生活習慣病	生活習慣病とは 健康問題と健康対策について学ぶ	個人
4	生活習慣病	悪性新生物について理解する 脳血管疾患について理解する	個人
5	生活習慣病	心疾患、高血圧について理解する	個人
6	生活習慣病	糖尿病と内分泌疾患について理解する	個人
7	呼吸器疾患、消化器疾患	肺炎、肺結核、慢性呼吸不全 肺がん、気管支喘息について学ぶ	個人
8	血液疾患、膠原病	血液疾患、膠原病について学ぶ	個人
9	腎臓疾患、泌尿器疾患	尿路感染症、尿失禁、腎不全と人工透析について学ぶ	個人
10	骨関節疾患	骨粗鬆症と骨折、変形性骨関節疾患について学ぶ	個人
11	神経疾患、先天性疾患の難病	神経疾患について学ぶ	個人
12	平衡機能障害	平衡機能障害とは 平衡機能障害をきたす病因について学ぶ	個人
13	リハビリテーション医療	リハビリテーションの対象と障害について学ぶ	個人
14	在宅医療の現状	在宅医療の実際と連携について学ぶ	個人
15	健康のとらえ方	健康の概念と健康増進の歴史 人口の高齢化と医療費、国民健康づくり対策について学ぶ	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%

【教科書】	最新　社会福祉士養成講座 最新 精神保健福祉士養成講座 1巻 医学概論
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
地域福祉論 ※実務経験のある教員の授業科目	相楽　愛美 特別養護老人ホーム等（介護福祉士）7年勤務	相楽

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

地域福祉の基盤となる地域社会についてふれ、①地域福祉の思想・概念(地域社会の構造変化)②在宅福祉サービス③地域福祉のマンパワー④地域福祉組織化論について理解する

【学習目標（到達目標）】	【受講して得られる力】
①「地域」が求める「福祉」とは何か理解できる ②コミュニティソーシャルワークについて理解できる ③地域福祉を推進する機関について理解できる	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力

【履修上の注意】　分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	現代社会と地域福祉	オリエンテーション 地域福祉概念の変化について理解する	個人
2	現代社会と地域福祉	地域福祉が目指す福祉コミュニティを理解する 地域福祉が重視される社会的背景	個人
3	地域福祉の内容①	「生活」に必要なサービスとはなにか考察する 福祉サービスの内容と種類	個人
4	地域福祉の内容②	「生活」に必要なサービスとはなにか考察する 社会サービスと地域ケアサービス	個人
5	地域福祉の内容③	「生活」に必要なサービスとはなにか考察する 地域福祉のマンパワー、ボランティアとNPO	個人
6	コミュニティソーシャルワーク	自立生活の考えと支援のあり方について理解する 自立生活の考え方	個人
7	地域福祉の主体形成①	福祉コミュニティの形成について理解する 福祉コミュニティの考え方、福祉コミュニティ形成とは	個人
8	地域福祉の主体形成②	地域福祉計画について理解する 地域福祉計画策定の視点と方法	個人
9	地域福祉の主体形成③	地域のエンパワメントについて考察する 福祉教育の考え方と推進方法	個人
10	地域福祉の主体形成④	権利擁護事業について理解する 成年後見制度について	個人
11	地域福祉の主体形成⑤	地域生活支援事業について理解する 地域包括ケアとネットワーク	個人
12	地域福祉の推進機関①	地域福祉サービスを供給・推進する組織・団体について理解する 社会福祉協議会・地域包括支援センター	個人
13	地域福祉の推進機関②	地域福祉サービスを供給・推進する組織・団体について理解する 民生委員・児童委員	個人
14	地域福祉推進の課題と展望	福祉社会に向けた仕組みづくりを理解する 地域福祉を推進する目的	個人
15	まとめ	学習の振り返り	個人

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%

【教科書】	最新　介護福祉士養成講座2　社会の理解
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
社会福祉援助技術演習 ※実務経験のある教員の授業科目	相楽　愛美 特別養護老人ホーム等（介護福祉士）7年勤務	相楽

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数（時間）】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	演習	1

【授業の概要・目的】

対人援助職として必要なコミュニケーション能力や面接技法、さらに相談援助の過程をロールプレイや事例検討を通して理解する

【学習目標（到達目標）】
①介護従事者としての職業倫理を身に付けることができる
②利用者とのよりよい援助関係を形成するために必要な基本的態度や知識を身に付けることができる
③援助者としての資質向上を目指し、習得した技術を実践の場で活用することができる

【受講して得られる力】
前に踏み出す力
チームで働く力
考え抜く力

【履修上の注意】 分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう

回数	授業のテーマ（担当教員）	授業の内容・目標（使用教材等）	授業方法
1	社会福祉援助技術の目的と意義	援助技術の基本的考え方 「日本介護福祉士会倫理綱領」から考察する	個人
2	援助関係の構築（基礎編①）	援助関係形成の基盤となるもの 「自己理解」「他者理解」「自己覚知」「環境の理解」を考察する	グループ
3	援助関係の構築（基礎編②）	援助関係形成における援助者の基本的態度 「バイステックの7原則」から援助関係形成を考察する	グループ
4	援助関係の構築（応用編①）	コミュニケーション技術の習得 「受容」「傾聴」「共感」と「コミュニケーションの特性」を考察する	グループ
5	援助関係の構築（応用編②）	基本的な面接技術の習得 ロールプレイを通して面接の基本的なスキルを考察する	グループ
6	相談援助の理論	相談援助の視点となるもの 課題解決の方法としてのアプローチとモデルを学ぶ	グループ
7	相談援助の方法	相談援助の展開過程 相談援助のプロセスと各段階での注意点を学ぶ	グループ
8	相談援助における社会資源と連携	社会資源の活用とネットワーキング 社会資源の活用と多職種・多機関との連携の重要性を学ぶ	グループ
9	相談援助の実際（事例研究①）	相談援助と児童 事例を通して援助の方法を考察する	グループ
10	相談援助の実際（事例研究②）	相談援助と高齢者 事例を通して援助の方法を考察する	グループ
11	相談援助の実際（事例研究③）	相談援助と障害者 事例を通して援助の方法を考察する	グループ
12	相談援助の実際（事例研究④）	相談援助と人権擁護 事例を通して援助の方法を考察する	グループ
13	相談援助と利用者の保護	個人情報の保護と苦情解決 個人情報保護法と苦情解決の対処法を学ぶ	グループ
14	援助者の燃え尽き症候群	援助者における燃え尽き症候群（バーンアウト）の防止 スーパービジョンとコンサルテーションの重要性を学ぶ	グループ
15	演習のまとめ	学習成果の振り返り	グループ

期末試験	レポート	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%

【教科書】	担当教員が指示します
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
福祉事務所運営論	佐藤　篤 一般	佐藤

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	15(30)	講義	1

【授業の概要・目的】

福祉事務所を中心とした公的福祉行政の役割と運営の仕組みについて学ぶことを目的とする。
生活保護、児童福祉、障害福祉、高齢者福祉など、福祉事務所が担う業務は多岐にわたり、その運営には制度理解だけでなく、組織運営・専門職連携・倫理・住民対応が求められる。

【学習目標(到達目標)】

①福祉事務所の役割と法的根拠を説明できる
②福祉事務所の組織構造と業務内容を理解できる
③ケースワークと運営管理の関係を説明できる

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
チームで働く力
考え抜く力

【履修上の注意】 分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	オリエンテーション	福祉事務所運営指針について理解できる	個人
2	福祉事務所の成り立ち	福祉事務所ができた経緯を理解する	個人
3	福祉事務所の法的根拠	社会福祉法等関係法規について理解する	個人
4	国・都道府県・市町村の役割	福祉行政の理念について理解する	個人
5	生活保護制度と福祉事務所	生活保護ケースワークの流れを理解する	個人
6	自立支援と就労支援	様々な課題を抱える人たちの自立と就労支援を知る	個人
7	子ども家庭福祉と福祉事務所	子どもやその家庭を取り巻く問題と課題についてのアプローチを理解する	個人
8	障害者福祉と福祉事務所	障害者を取り巻く問題と課題についてのアプローチを理解する	個人
9	福祉事務所の組織構造	欠く職員の役割を理解する	個人
10	ケースワーカーの役割	ケース管理と記録の方帆について理解する	個人
11	事務職・専門職の協働	福祉事務所における多職種協働について理解する	個人
12	公的福祉における倫理	福祉実践において求められる責任や判断の在り方を学ぶ	個人
13	デジタル化と業務の関係	業務の効率化や質の向上にどのように活用できるかを学ぶ	個人
14	行政福祉の将来像	今後の方向性や持続可能な制度の在り方について考える	個人
15	まとめ		個人

期末試験	筆記試験	評価方法	授業への貢献 20%	レポート 40%
			筆記試験 40%	

【教科書】	担当教員が指示します
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
社会福祉施設経営論(1/2)	佐藤　篤 一般	佐藤

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

社会福祉を取り巻く様々な変化による社会福祉施設、社会福祉法人経営管理における課題を明確化する。さらに施設利用者の生活の質を高めるために提供される福祉サービスの必要性と方法について理解を深める。

【学習目標(到達目標)】

①社会福祉施設の体系及び制度の概要や社会福祉施設の役割・機能について理解する
②社会福祉施設における福祉サービスの理念を理解する
③地域における施設の役割について理解できる

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
チームで働く力
考え抜く力

【履修上の注意】　社会福祉施設の組織について興味を持ち、実習等で訪れた施設を思い出しつつ授業に臨むこと。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	社会福祉施設の沿革、概況及び役割・理念	社会福祉施設の沿革 社会福祉施設の概況と役割を理解できる	個人
2	社会福祉施設の体系と制度	社会福祉施設の体系 社会福祉施設の運営について理解できる	個人
3	社会福祉法人の経営	社会福祉施設の経営管理 様々な福祉サービスを理解できる	個人
4	社会福祉法人の役割	社会福祉法人設立の背景 各法人について理解できる	個人
5	社会福祉施設の経営管理	経営論と経営指標 リスクマネジメントを理解できる	個人
6	利用者のニーズとサービス管理	施設利用者の現状 生活の質と自立支援を考察する	個人
7	施設サービスの基本	社会福祉施設のサービス管理 施設サービスの計画を理解できる	個人
8	援助計画と援助活動の評価	ケース会議の設定と必要性 サービス計画の立案と記録の意義を理解できる	個人
9	社会福祉施設の業務管理	業務方針と計画 日常的な業務運営を理解できる	個人
10	社会福祉施設の組織管理	組織の役割 組織管理の原則を理解できる	個人
11	職員組織の考え方と業務分担	組織化の原則と業務分担 チームワークとリーダーシップの重要性について理解できる	個人
12	行政サービスと措置費	行政が対象とする社会福祉施設の範囲 子ども、高齢者、障害者施設と行政サービスについて理解できる	個人
13	福祉関係法と社会福祉施設運営	介護保険方式と契約方式 障害者総合支援法・障害者差別解消法と運営	個人
14	地域社会における施設の役割①	社会福祉施設の設置主体 施設の社会的役割を考察する	個人
15	地域社会における施設の役割②	施設サービス・在宅サービス統合の地域社会 住民参加型の施設を考察する	個人

期末試験	レポート	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%

【教科書】	担当教員が指示します
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
社会福祉施設経営論(2/2)	佐藤　篤 一般	佐藤

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	1	後期	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

社会福祉を取り巻く様々な変化による社会福祉施設、社会福祉法人経営管理における課題を明確化する。さらに施設利用者の生活の質を高めるために提供される福祉サービスの必要性と方法について理解を深める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①社会福祉施設の体系及び制度の概要や社会福祉施設の役割・機能について理解する ②社会福祉施設における福祉サービスの理念を理解する ③地域における施設の役割について理解できる	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力

【履修上の注意】　社会福祉施設の組織について興味を持ち、実習等で訪れた施設を思い出しつつ授業に臨むこと。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	在宅福祉サービスの推進	福祉施設が担う在宅福祉サービス 在宅サービスの実態	個人
2	施設における福祉教育活動	福祉活動拠点としての施設 生涯学習とボランティア活動	個人
3	施設におけるボランティア活動	ボランティア活動の実際 福祉後継者の育成	個人
4	社会福祉施設における人事管理	人事管理とは何か 人事考課制度	個人
5	社会福祉施設における労務管理①	労働条件管理と労使関係 労働基準法と労務管理	個人
6	社会福祉施設における労務管理②	安全衛生管理 福利厚生	個人
7	社会福祉施設における財務管理①	社会福祉法人会計基準の概要 予算と決算	個人
8	社会福祉施設における財務管理②	資金収支計算書と事業活動収支計算書 貸借対照表と財産目録・原価償却	個人
9	社会福祉施設の建物	社会福祉施設の建設の原則 新たな施設づくりの展開	個人
10	社会福祉施設の設備・環境	建築から社会福祉施設の動向と問題点 社会福祉施設建設のあり方	個人
11	社会福祉施設における人材育成	人材育成の意義と内容 職場研修の考え方　OJT　SDS	個人
12	職場研修の方法	研修管理サイクル　研修計画作成 職場研修の基本	個人
13	社会福祉事業従事者の動向	社会福祉事業従事者の動向 社会福祉専門職の役割と経緯	個人
14	社会福祉従事者の確保対策	福祉人材確保法制定の考え方 社会福祉関係法と社会福祉事業従事者	個人
15	まとめ	学習の振り返り	個人

期末試験	レポート	評価方法	授業への貢献　60% 筆記試験　40%

【教科書】	担当教員が指示します
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　予習・復習をしましょう

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
社会福祉現場実習	佐藤　篤 一般	佐藤

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	90時間	実習	2

【授業の概要・目的】

社会福祉施設等において実際の支援現場を体験し、利用者支援の実際や福祉専門職の役割について学ぶ。事前学習・実習・事後学習を通して、専門職として必要な知識・態度・倫理観を養う。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①社会福祉現場における支援の実際を理解する ②利用者の生活や権利を尊重した支援姿勢を身につける ③福祉専門職としての基本的態度・倫理・責任を理解する	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力

【履修上の注意】	実習における学習計画を立てましょう。

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	社会福祉現場における支援の実際を体験し、福祉専門職として必要な姿勢や役割を理解する。(介護福祉学科教員)	【学習の主題】 社会福祉現場実習(事前学習・現場実習・事後振り返り) 【学習課題】 1.社会福祉現場の役割や業務内容を理解する。 2.利用者の立場、背景を尊重したかかわり方を身につける。 3.福祉専門職として求められる倫理・責任・態度を理解する。 4.職員間の連携やチーム支援の重要性を理解する。 5.実習を振り返り、自身の課題を明確にする。	個人又はグループ
2			個人又はグループ
3			個人又はグループ
4			個人又はグループ
5			個人又はグループ
6			個人又はグループ
7			個人又はグループ
8			個人又はグループ
9			個人又はグループ
10			個人又はグループ
11			個人又はグループ
12			個人又はグループ
13			個人又はグループ
14			個人又はグループ
15			個人又はグループ

期末試験	なし	評価方法	課題の達成度 20% 実習評価 80%	

【教科書】	なし
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	実習関係書類を整理・確認すること

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
社会福祉現場実習指導(1/2)	佐藤　篤 一般	佐藤

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

実習体験をとおして社会福祉の知識、理論を検証する。さらに、社会福祉専門職としての分野、領域を知ることにより社会福祉の専門職への自覚を高める。

【学習目標(到達目標)】	【受講して得られる力】
①現場実習の意義について理解する ②現場実習を通して知識・技術等を具体的かつ実際的に理解する ③福祉専門職としての自覚を促し、専門職として求める資質を理解できる	前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力

【履修上の注意】	分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	社会福祉現場実習の意義と目的	社会福祉援助の特性 社会福祉援助の基本的視点を理解できる	個人又はグループ
2	社会福祉方法と形態	社会福祉実習の方法 「求める人材」について考察する	個人又はグループ
3	実習機関の現状と課題	実習機関の現状 各実習機関の役割を考察する	個人又はグループ
4	福祉実習と援助技術	対人援助とコミュニケーション 状況に応じたケアの実際を理解できる	個人又はグループ
5	個別処遇①	初期面接の留意点 情報収集する際の注意点を理解できる	個人又はグループ
6	個別処遇②	評価と確認 処遇計画の設定について理解できる	個人又はグループ
7	グループワークの方法	グループワークの目的 個別性と集団性について理解できる	個人又はグループ
8	記録の書き方	記録の意味と必要性 何をどのように記録するか理解できる	個人又はグループ
9	スーパービジョン①	スーパービジョンとは スーパービジョンの機能を理解できる	個人又はグループ
10	スーパービジョン②	実習生に対するスーパービジョン スーパービジョンでの人間関係について事例から考察する	個人又はグループ
11	実習計画の作成と検討	実習の自己評価 実習目的、方法を明確化することができる	個人又はグループ
12	実習課題の評価	課題達成評価の意味 評価項目と学習成果の関係性を理解できる	個人又はグループ
13	実習準備①	実習施設設定の留意点 社会福祉主事の専門性を理解できる	個人又はグループ
14	実習準備②	実習書類確認 各種記録をまとめる	個人又はグループ
15	まとめ	実習報告の準備 各種記録をまとめる	個人又はグループ

期末試験	レポート	評価方法	課題の達成度　20% 実習評価　80%

【教科書】	担当教員が指示します
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】	担当教員が指示します

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて

【科目名】	【担当教員】	【科目責任者】
社会福祉現場実習指導(2/2)	佐藤　篤	佐藤

【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
介護福祉学科	2	前期	30(60)	講義	2

【授業の概要・目的】

主として相談援助業務の役割を学ぶ場として位置づけ、社会福祉の専門職としての職業倫理を身に付けることとし、福祉事務所・社会福祉協議会・社会福祉施設でそれぞれ実習を行う。

【学習目標(到達目標)】

①社会福祉施設について理解する
②社会福祉協議会について理解する
③福祉事務所について理解する

【受講して得られる力】

前に踏み出す力
チームで働く力
考え抜く力

【履修上の注意】　分からないことは積極的に質問をする、調べる姿勢を養いましょう

回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)	授業方法
1	実習準備③	実習生の基本的態度について理解できる	個人又はグループ
2	実習準備④	専門職の倫理について理解できる	個人又はグループ
3	実習レポートの作成①	実習レポートの意義 実習日誌の活用法について理解できる	個人又はグループ
4	実習レポートの作成②	実習後の課題の明確化することができる	個人又はグループ
5	実習課題の評価	実習課題達成度の確認 実習評価と新たな課題を考察する	個人又はグループ
6	実習報告会①	実習報告の目的 実習報告の進め方と役割について理解できる	個人又はグループ
7	実習報告会②	実習報告と自己評価を実施できる	個人又はグループ
8	実習報告会③	実習の評価をフィードバックする	個人又はグループ
9	実習施設との連携	実習後の実習施設とのかかわり 専門職としてのかかわりを理解できる	個人又はグループ
10	グループ・スーパービジョン①	インシデントを用いたスーパービジョンを考察する	個人又はグループ
11	グループ・スーパービジョン②	体験をわかち合うスーパービジョンを考察する	個人又はグループ
12	グループ・スーパービジョン③	コミュニケーションの再構成 スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係性を理解できる	個人又はグループ
13	専門職としての倫理	実習施設における専門職の倫理 利用者、実習指導者及び職員から学習できること	個人又はグループ
14	協働と援助	福祉実践者としてのチームワーク 職種間におけるネットワークを理解できる	個人又はグループ
15	まとめ	講義を振り返り、社会福祉主事の役割を理解することができる	個人又はグループ

期末試験	レポート	評価方法	課題の達成度　20% 実習評価　80%

【教科書】	担当教員が指示します
【参考書】	なし

【授業時間外に必要な学習の具体的内容】　担当教員が指示します

【本講義に関しての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて